

# ニュージーランドでの暮らしから

## 二宮 健史郎

(経済学部助教授)

平成十五年四月より、ニュージーランドのクライストチャーチ近郊にあり、まずリンカーン大学に滞在してあります。ニュージーランドは、いち早く市場経済化を志向したドラスティックな経済改革を行い、世界に先駆けてインフレ・ターゲットを導入した国として知られています。一九七一年初頭のイギリスのEC加盟、石油危機により、

ニュージーランドは、年率十五%に近い高インフレと、景気後退という苦境に直面します。そのため、一九八四年から、ロジャーノミックスと呼ばれる市場経済化、経済の効率化を志向する一連の経済改革が断行されました。一連の経済改革に対する評価は分かれています。高インフレの抑制には成功し、インフレ・ターゲット導入後、概ね目標とするインフレ率を達成しています。残念ながら、インフレターゲットの成果を経験的に書くことはできません。ここでは物価水準そのものについて紹介したいと思います。ニュージーランド

は農業国ですから、当然農産物は日本とは比べ物にならないくらい安く買うことができます。日本でもおなじみのニュージーランド産の代表的な農産物といえばキウイですが、コルデンキウイ八個入りパックが約三NZドル(約二一〇円、一NZドル 七十円)で売られています(これには、十五%のGST(消費税)が含まれています)。農産物、畜産物については、輸送コスト等が高いということも考えられるのですが、コラの値段もセール時には、一・五ペットボトルが一NZドル程(約七十円)でした。但し、ニュージーランドの一人当たりのGDPは日本の約半分ですから、この値段も購買力から考えれば感覚的にそう安いと感じるものではないのかもしれませんが。

農産物の値段の安さに対して、工業製品の値段は一般的に高めです。まず、ニュージーランドに來ると日本車の多さに驚かされます。ニュージーランドでは、中古車の売買が盛んに行われていますが、六、七年前に日本で登録されたものが多いようです。六、七年と

いうと、一般的に日本人が車を買換える時期かと思えますが、その中古車がニュージーランドに輸出されているということになります。ニュージーランドは日本と同じく左側通行ですから、周りの建物等がなければ日本にいと錯覚してしまうほどです。しかしながら、その値段の高さにも驚かされます。日本では、ゼロ査定で走行距離十萬キロを越えるような中古車が、約四NZドル(約二十八万円)で売られています。確かに、農産物は安いのですが、工業製品の高さ等、総合的に考えると生活コストは日本(の地方)と比べて格段に安いというわけでもないような気がします。

次に、経済改革についてですが、改革が遅れていると言われる日本と比較して、どちらが効率的(競争的)なのかと問われれば、概して日本の方が効率的であるという印象です。そして、市場経済化が進んだとはいえ、多くのニュージーランドの人々は家族と過ごす時間を大切に、老人や乳幼児連れ等、社会的弱者に対するいたわりの心を持ち続けているようです。現在、日本は構造改革を推し進めています。逆の言い方をしますと、これ以上競争的になれば雇用の不安定化、弱者

切捨て、過労死、自殺、家庭崩壊がさらに増加するのではないかと心配になってしまいます。それでも、二十四時間営業のスーパーが登場し、大学のコマースヤルが頻りにテレビで流れているのを見ますと、ニュージーランドの市場経済化の波は、ある面においては私の想像以上のものなのかもしれません。

以上、ニュージーランドの物価と経済改革について書いてきましたが、この他にも長く暮らしてみても初めて実感できたことが多くあります。最後になりましたが、長期にわたる在外研究の機会を与えていただいたことに心より感謝申し上げます。



筆者の滞在するリンカーン大学。「学校に桜」は世界共通ではないと思いますが。